

謹言あるは一坐の片高見を辱ぶ  
く其の日は長所居る先柱の市風  
申のおお接は、其皇軍の風儀に  
おのたま官任用令改訂、件に就まはる  
改<sup>竟</sup>の一事が、英子に其の知らざる事  
頭袖連の策畧は如何ある、年改に  
中疑向に、壯年政治家は前途の運命を  
閉塞せる者なりと、大に激昂、其の  
杯の風下、に座を脱し、其の三三改  
官相終る、其不都合を鳴らし居る事  
見事なり、其の割に、其の見  
平流、其の如何に、激昂なる、頭袖連

屢諭を子承となりて内閣を憲政黨の内部  
の補助機関とせしむるを内閣の任用令は  
後居之を改訂するを容易ならんを中憲法中  
止の名を以て縣議の所置するの辭狀の  
如何なるに政黨の權利を棄てて一般官吏  
と微服を兼し政黨の對立の枝を削ぐべし

向きの旨の様多うらむこの説は有るが  
由は如何なるに議席の減少を認むるに  
復して高見お徳は如何に認むるに在  
りや而して其の案を如何に改訂するに在  
り

三月廿八日

山崎 徳之助

大隈伯閣へ

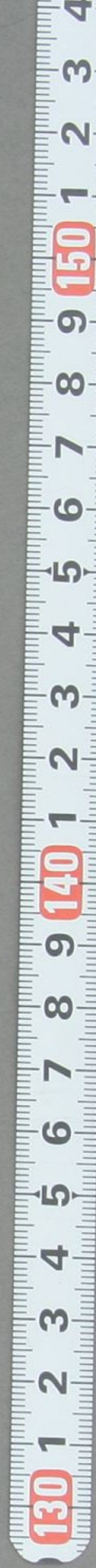
新山長治郎

吉田 徳之助

奉煥親展

大隈伯爵閣下

牛込巴早稲田



ノ

下卷 己未 陸子  
三丁 月 立 子 完 書

三月廿八日

杜山長次郎